

授業概要

前年までに修得した「文化人類学」の基礎的知識・考え方にもとづき、本コースでは「応用人類学」的な視点から現代の世界的な課題にアプローチする。応用人類学者らにより研究が進められているテーマ——例えば、エスニシティ、セクシュアリティ、グローバル化、教育、医療、食料、環境、移民、難民など——について講義する。あわせて、グループワークやディスカッションなども積極的に取り入れる。そこで本コースでは講義にくわえ、「グループ・プロジェクト」や「個人プロジェクト」などの学生みなさんが主体的に取り組む課題が重視される。したがって、本コース履修成功のカギは、何よりも学生一人ひとりの主体的で意欲的な学びとなることに注意されたい。

授業計画

*履修者数・授業の進捗状況等により、下記のスケジュール・内容を変更することがある。

第 1 回	コース・ガイダンス：本コースをはじめるとあって
第 2 回	イントロダクション：文化人類学と比較文化研究
第 3 回	「フィールドワーク」と「民族誌」
第 4 回	「応用人類学」とは？
第 5 回	人種・民族・エスニシティ
第 6 回	性・ジェンダー・セクシュアリティ
第 7 回	グローバル化と経済
第 8 回	グループ・プロジェクト発表会（質疑応答、ディスカッションを含む）
第 9 回	教育・医療問題
第 10 回	食料・環境問題
第 11 回	都市・開発問題
第 12 回	移民・難民問題
第 13 回	「文化」とは？：本コースのまとめ
第 14 回	個人プロジェクト発表会：前半（質疑応答、ディスカッションを含む）
第 15 回	個人プロジェクト発表会：後半（質疑応答、ディスカッションを含む）
第 16 回	定期試験

到達目標

1. 応用人類学で扱われる主要なテーマについて理解できる。
2. 応用人類学の視点を用いて、現代の社会的な課題を探究できる。
3. 文化的多様性を尊重したうえで、世界を取り巻く複雑な問題について自分なりの分析ができる。

履修上の注意

大学生としての自覚を持ち、自らの責任を果たすこと。ここでいう「自らの責任」とは授業に出席するだけでなく、積極的に関与・発言し、さらには課題を時間厳守で提出することである。単位は与えられるものではなく、自ら取りに来るものである。課題で不正（盗用、「コピペ」など）をした場合、たとえそれが初回であっても、即刻、本コースの履修を「不可」とし、厳重に処罰するので十分に注意すること。なお、本コースは文化人類学の基礎的理解を必要とするので、履修にあたっては前年までに文化人類学の単位を取得していること。

予習・復習

その日に扱うテーマについて自分なりの理解や問題意識を持って授業に臨むこと。そのためには、事前に教科書を読んでおくことが望ましい。授業後は学習した内容についてクラスメートと議論し、自分の言葉で説明できるようにしておくこと。さらには、授業や課題をとおして学んだことをもとに、現代社会が抱える諸問題について自ら考える契機としていただきたい。何よりも、旺盛な知的好奇心を育むことが求められる。

評価方法

以下の方法により総合的に評価する。なお、学期を通じて授業に 2/3 以上出席しない場合、成績評価の対象とはならない（自動的に「不可」となる）。①授業への積極的な関与（発言・質疑応答など）10%、②グループ・プロジェクト（発表・提出を含む）20%、③個人プロジェクト（発表・提出を含む）20%、④定期試験 50%

テキスト

- ・教科書名：『よくわかる文化人類学 第2版』
- ・著者名：綾部恒雄・桑山敬己（編）
- ・出版社名：ミネルヴァ書房
- ・出版年（ISBN）：2010年（978-4-623-05696-5）